

T.M.P.H.ニュース

2019 Autumn Vol. 28

どなたでも受診いただける地域の病院

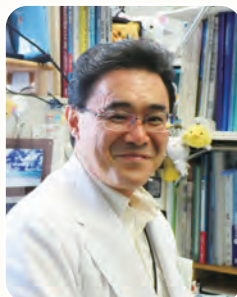
Tokyo Metropolitan Police Hospital News

CONTENTS

- 医師コラム「あたまの病気 よもやま話」
- インフルエンザにかからない！広げない！
- 5階西病棟紹介
- 自衛消防隊の紹介
- 患者さんからのメッセージ
- 区民健康講座のご案内
- 予防医学センターの紹介



あたまの病気 よもやま話



脳血管内治療科 副部長
リハビリテーション科 副部長
脳卒中センター副センター長

阿部 肇

【専門領域】 脳血管内治療
リハビリテーション医学全般
脳卒中治療のリハビリテーション
【主な資格】 日本脳神経外科学会 専門医
日本脳神経血管内治療学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医
リハビリテーション科 専門医

頭の病気と聞いて、皆さんはどういった病気を連想するでしょうか。

脳梗塞？脳出血？くも膜下出血？脳腫瘍？

数え上げればきりがありません。

ですが、どれもこれもきっと皆さんがなりたくない病気のベストテンに入っているのではないのでしょうか。

今回は、頭の病気を中心に、これまでの医学の発展を大まかに捉えながら、よもやま話をしたいと思います。

まずは、頭の手術。

過去に遡ること、紀元前4000年、すでに頭を開ける手術が行われていたようです。何を目的としたかは不明ですが、遺跡に残された頭蓋骨に人工的に開けられた穴を認めるものが見つかっていて、そのことを物語ります。

外科という医学

ここで一般的な外科、を考えてみます。

一昔前は、外科とは医者が行うものではない、そういったものでした。

私も学生の頃に聞いた時にはびっくりしましたが中世ヨーロッパでは、床屋外科、という言葉があったというのです。

つまり床屋さんが、ハサミや髭剃りを使うことから、それらを使う人々が外科手術を行っていたというのですから、なかなか驚きです。

次に脳外科という分野が出てきたのが19世紀頃

1877年 西南戦争で頭部を銃で撃たれた兵隊に対して穿頭術を施行、これが日本で初めて記録に残っている手術です。その後から東京大学をはじめ、いろいろな大学病院等で頭への手術が行われていきました。

それを考えると、脳外科というのはこの100年の間に発展してきた、ということになります。

内科や外科は、もっと古い時代から、それこそ義足や装具といったものについては今から3000年もの昔、エジプト時代から存在していたと言われています。

脳外科が劇的に発展できたのは、麻酔の進歩とともに、清潔な領域の必要性、救命医学、輸血学など含め、これらの礎があるからでしょう。

そして、病気の診断に重要な役割を果たしてくれる画像診断は、1953年に血管撮影の基礎、1971年にCT検査の基礎(日本初導入は東京女子医大へ1975.8.26だそうです)、1983年にMRIを東芝が開発、これらが診断の補助となり、頭を開けなくても脳の状態がわかるという画期的な開発であったわけです。一方で、1967年に脳の手術に顕微鏡が導入されたことが更なる革命を起こしたといっても過言ではありません。微細で正常な脳組織を顕微鏡で見ながら手術を行うようになり、治療成績の向上に一役買ったのは言うまでもありません。しかし、その一方で、脳の手術が発展したのは、1970年代のモータリゼーションにより交通事故で重症な頭部外傷の救命への手術、こういった側面があることも忘れてはいけません。

現在の脳の手術といえば、大別して脳腫瘍、脳血管障害の2つがあげられます。

脳腫瘍は、脳の局所に障害を加え、日常生活にダメージを与えます。手術を行うことで、その症状を改善させることも出来れば、ダメージが強ければ後遺症に悩まされることになります。脳血管障害は、命を脅かすような症状を来し、救命出来たとしても、重篤な後遺症で寝たきりになってしまう可能性もあります。

雑多な内容となりましたが、このように後遺症と切っても切り離せない脳の病気に対して我々脳神経外科を専門とする医師は日夜戦っています。



東京警察病院
Tokyo Metropolitan
Police Hospital

東京警察病院の頭文字「T」をモチーフに、3つの「意味」を込めてつくられました。

Thoughtful(ソートフル)……患者様の立場に立った医療を目指していきます
Technical(テクニカル)……医療レベルの向上に努めていきます
Trustworthy(トラストウオージー)……皆様の信頼に応えていきます

インフルエンザに かからない 広げない！



インフルエンザの流行する時期に入ってきました。10月初めの東京都感染症情報センターHPには「都内でインフルエンザの流行開始」というニュースがありました。

そこで、インフルエンザにかからないために気をつけたい事をお伝えします。

インフルエンザとは？

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行が見られます。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話などから発生する小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。他に水滴（飛沫）の付着物に触れた手指を介して接触感染もあります。

感染後の症状は？

38℃以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが比較的に急速に現れるのが特徴です。鼻水、咳などの呼吸器症状がこれに続きます。「かぜ」と比べて全身症状が強いことが特徴です。

インフルエンザにかからないための対策は？

1) 流行前のワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と発症した場合の重症化防止に有効と報告されています。

ワクチン接種をして効果が現れるまで約2週間程度かかると言われてしています。効果の持続は5か月程度と言われてしますのでそこを踏まえてワクチン接種を受ける時期を検討すると良いと思います。

基礎疾患がある方は、ワクチン接種について担当医と相談して下さい。

2) 外出後の手洗い

流水と石鹸による手洗いは手指についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法です。インフルエンザウイルスはアルコール製剤による手指衛生も効果があります。

3) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取を日頃から心がけましょう。

インフルエンザを広げないためには？

1) 咳エチケットの徹底

咳やくしゃみ等の症状がある場合は家族や周囲の人にうつさないように、飛沫感染対策としてマスクを着用して咳エチケットの徹底をしましょう！

2) 人混みや繁華街への外出を避け、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。



5階西病棟の紹介

5階西病棟は消化器外科、乳腺外科、形成外科の病棟です。手術や検査を目的に入院される患者さまが大半を占めています。手術を控えた患者さまは様々な不安を抱えて入院されます。私たちは患者さまとご家族が抱く不安が軽減でき

るような関わりを目指し、安心して入院生活を過ごせるよう心がけて日々看護に努めております。

手術前には手術までの準備や、術後の経過など患者さま一人一人の個性に合わせてオリエンテーションを実施しています。手術後は患者さまが一番不安に思っている痛みに対するケアにも力を入れ、患者さまの声に耳を傾けながら適切な看護ケアの実践に力をいれております。感染予防と早期離床をモットーに看護をするなかで、患者さまが笑顔で退院されていくことを嬉しく思います。

長期入院が必要となった患者さまには他職種と連携を図り、もとの生活に戻るようリハビリや退院調整にも力を入れています。また、終末期を迎える患者さまには、緩和ケア認定看護師指導のもと患者さまと家族の思いに寄り添い、その人らしい最期を迎えられるよう考え関わらせて頂いています。

私たちは、いつでも患者さまのニーズに応え、個別的・継続的な医療と看護を提供することを目指しています。



自衛消防隊 自衛消防訓練審査会

令和元年9月6日、本院より男子隊員2名、女子隊員2名が参加いたしました。女子が第3位、男子が敢闘賞と練習の成果を発揮しました。

自衛消防隊男子コメント

約1か月の訓練を通じて、いつからか忘れていた一つの目標に向かって仲間と一緒に頑張ることの大切さを思い出しました。3位以内を逃して残念でしたが、全力を出せたので後悔はありません。

自衛消防隊女子コメント

火災時にどのような対応を取るべきなのかを学ぶ機会にもなり、貴重な経験となりました。また、任命されてから1か月練習に励み、審査会で表彰されたときには大きな達成感を感じることができました。



患者さんからのメッセージ

ご意見	外来患者用の自転車置き場が朝からいっぱい駐輪できないので改善してほしい。	回答	ご不便おかけし申し訳ございません。不法駐輪車、所有者不明、長期駐輪車を撤去いたしました。今後も定期点検を継続して駐輪場の環境整備に努めて参ります。
	1階正面玄関の消毒液が使いづらい。		ご不便をおかけして申し訳ありませんでした。足踏み式に変更し、横に手荷物が置けるスペースも設けました。



区民健康講座のご案内

地域の皆様を対象に医療の様々な分野と知識について
当院の医師がわかりやすく解説する健康講座を開催しています。

第113回 11月30日(土)
午前10:30~11:30
(開場10:00)

テーマ 痛みとしびれの世界へようこそ

総合診療内科・脳神経内科部長 菊池 猛

第114回 12月7日(土)
午後13:30~14:30
(開場13:00)

テーマ あたまの病気 よもやま話

脳血管内治療科、リハビリテーション科副部長 阿部 肇

たくさんの方のご参加を心よりお待ちしております。

受講料
無料

◆場 所：東京警察病院本館 9階 大会議室
◆申 込：経営企画課へお申し込み下さい。

① 電話：TEL 03-5343-5611 (内線14552)

受付時間：8:30~17:00 (日曜日・祝日・年末年始を除く)

② FAX：ホームページよりFAX用紙を印刷して頂き送信して下さい。

FAX 03-5343-5612

※電話・FAX番号をお確かめのうえ、お間違のないようお願いいたします
※当日、お車の方は病院の駐車場をご利用下さい(30分/100円)

参加者の声

●わかりやすく、面白く説明いただき良く理解出来ました。●内容が知りたかったことなのでとても参考になりました。●質問にも丁寧に答えてもらってよかった。

過去に開催されたテーマ

- 顔のアンチエイジング
- 目からウロコの臨床検査



予防医学センターの紹介

病気の早期発見と予防のため、充実した医療機器と経験豊富なスタッフによる高度な検査を提供いたします。また、病院併設型ドック機能によるフォローアップ体制が充実しています。

基本コースの流れ (所要時間約4時間30分)

受付 (8:00) 身体測定 血液・尿検査 血圧・脈拍測定 眼科検査 聴力検査 呼吸機能検査 心電図検査 腹部超音波検査 診察 胸部X線検査 上部消化管検査 オプション検査(30項目) (基本コースを受診し、事前にご希望された方)

コース料金

基本コース 55,000円(税込)

結果説明 終了 (概ね12:30) ※検査の順序は、状況により前後します。

※その他、多数のオプション検査をご用意しております。
詳細は予防医学センターまでお問い合わせください。

PET-CT検査は単独受診も可能です110,000円(税込)

ご予約・お問合せ先 受付時間/ 月曜日~土曜日 10:00~16:30
予防医学センター(9階) 電話番号/ 03-5343-5750(直通)

診療のご案内

受付
時間

月曜日~土曜日 午前 8:00~11:30
午後 12:30~16:00

- 自動再診受付機 稼働時間……7:30~16:00
- 自動精算機 稼働時間……8:30~17:00

※防災センター自動精算機:24時間稼働

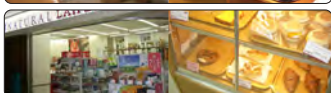
■ 休診日:日曜日・祝日・年末年始(12/29~1/3)



レストラン「憩」

9F

営業時間 7:30~18:00



ナチュラル・ローソン

1F

営業時間 6:00~21:00

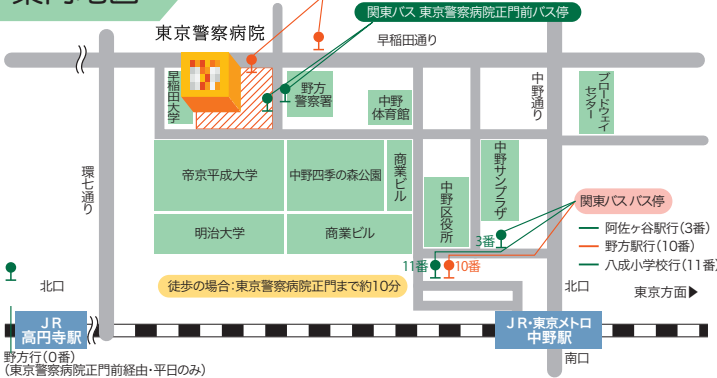


TULLY'S COFFEE

本館2階 喫茶室

営業時間 7:30~18:00

案内地図



屋外駐車場 80台 一般料金:200円/30分 受診者料金:100円/30分
病院敷地内は全面禁煙です。ご協力をお願い致します。

理 念

私たちは、医療の質の向上と患者さまの満足を目指し、
日夜努力いたします

基本方針

- 私たちは、患者さまの権利と意志を尊重し患者さまの立場に立った医療を実践します
- 私たちは、常に医療モラルと医療レベルの向上に努め、良質で信頼される医療を提供します
- 私たちは、地域の皆さまの信頼のもと、地域医療の発展に貢献します
- 私たちは、医療を通じて職域をサポートし社会の安全に寄与します
- 私たちは、患者さまが安心して療養に専念していただけるよう、健全な経営を推進します

患者さまの権利と責務

- 基本的権利
良質で安全な医療を、
等しく受けることができます
- 情報を得る権利
十分な説明と情報提供を受けることができます
- 自己決定と選択自由の権利
自己の意志に基づき、治療を選択すること、
あるいは拒むことができます
- 情報保護の権利
個人の医療情報ならびにプライバシーは、保護されます
- 責任と義務
他の患者さまの診療、ならびに医療従事者の業務を
妨げるような行為は、慎んでいただきます